改善方策実施計画書 担当部局: 語学教育研究所 責任者: 語学教育研究所長 幹事: 外国語学部事務室

2010年 7月13日

認証評価指摘事項									
点検・評価問題点	研究員の個人研究	でと共同研究の効	率的な展開か	十全で	はない。学生の	の教育	が需要の検討が	不十分	分である。
改善方策	7-25-2 課題別研究または共同研究を優先させ、授業に還元できる指向性を共有する。								
	前	 期		中	期			<b></b>	
計画	2010 年度	2011 年度	2012 年	度	2013 年度	F L	2014 年度		2015 年度
нтеч				<b>—</b>					
20	10 年度実施計画		達成時期		2	2010年	<b>三度取り組み結果</b>		
研究所の研究活動と		共同研究のガイ	2011. 3	I	名字全に達成	0	B 達成半ば		C 未達成
ドライン設置のため	りの事前の情報収集	を行う。		( B a	または C の理は	自)	l		
				引き約	き、次期所長	<b>{</b> ∼∅	申し送り事項とし	て、	
				他研究	所へのヒアリ	ングフ	などの情報収集に	努め	る。
20	11 年度実施計画		達成時期		2	2011年	<b>三度取り組み結果</b>		
未習外国語教育に関			2011. 10	<b></b>	名字全に達成	L	LL.		C未達成
東松山キャンパスの	_	と連携して					共同研究を優先さ		
その実施を検討する	5.		2012. 3			_	するために「未習		
						_	実施を決定した		
				との連携もまとまり、執行予算も承認されたため、「この計画 の実施検討をする」目的は達成された。					
0010 F PERFE			and a Dawletter	の実施候刊をする」日刊は重成された。 2012 年度取り組み結果					
20	11) 4-14-7-7-7-7-14-1		李叶井田		9	か19 年			
	12年度実施計画	「土羽从田武数	達成時期 2012 2			2012 年			C丰泽山
前年度にその実施が	決定、承認された		達成時期 2013. 3	O 1	2 A完全に達成	2012 年	E度取り組み結果 B達成半ば		C 未達成
前年度にその実施が	ぶ決定、承認された −ト調査・研究」を「	外国語分科会」	. —	O 1		2012 年			C未達成
前年度にその実施が	ぶ決定、承認された −ト調査・研究」を「 尾施する。 アンケー	外国語分科会」 ト調査を分析、	. —	O 1		2012 年			C 未達成
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に写	ぶ決定、承認された −ト調査・研究」を「 尾施する。 アンケー	外国語分科会」 ト調査を分析、	. —			2012 年			C未達成
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと	ぶ決定、承認された −ト調査・研究」を「 尾施する。 アンケー	外国語分科会」 ト調査を分析、	. —		1完全に達成				C未達成
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと	ぶ決定、承認された - ト調査・研究」を「 に施する。アンケー こめて、語研より刊	外国語分科会」 ト調査を分析、	2013. 3		1完全に達成		B達成半ば		C 未達成
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと	ぶ決定、承認された - ト調査・研究」を「 に施する。アンケー こめて、語研より刊	外国語分科会」 ト調査を分析、	2013. 3	· ·	1完全に達成 2	2013 年	B達成半ば B達成半ば B達成半ば B連続 B連続 B連続 B連続 B連続 B連続 B連続 B連続 B連続 B連続		
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと	ぶ決定、承認された - ト調査・研究」を「 に施する。アンケー こめて、語研より刊	外国語分科会」 ト調査を分析、	2013. 3	· ·	1完全に達成 2 1完全に達成	2013 年	B達成半ば B達成半ば B達成半ば B連続 B連続 B連続 B連続 B連続 B連続 B連続 B連続 B連続 B連続		
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと	ぶ決定、承認された - ト調査・研究」を「 - 下調査・研究」を「 実施する。アンケー とめて、語研より刊 - 13 年度実施計画	外国語分科会」 ト調査を分析、	2013. 3 達成時期	· ·	A完全に達成 2 A完全に達成 または C の理目	2013 年	B達成半ば E度取り組み結果 B達成半ば		
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと	ぶ決定、承認された - ト調査・研究」を「 に施する。アンケー こめて、語研より刊	外国語分科会」 ト調査を分析、	2013. 3	( B &	A完全に達成 2 A完全に達成 または C の理師	2013 年	B達成半ば E度取り組み結果 B達成半ば E度取り組み結果		C 未達成
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと	ぶ決定、承認された - ト調査・研究」を「 - 下調査・研究」を「 実施する。アンケー とめて、語研より刊 - 13 年度実施計画	外国語分科会」 ト調査を分析、	2013. 3 達成時期	( B &	A完全に達成 2 A完全に達成 または C の理目 2 A完全に達成	2013 年 自 ) 2014 年	B達成半ば E度取り組み結果 B達成半ば		
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと	ぶ決定、承認された - ト調査・研究」を「 - 下調査・研究」を「 実施する。アンケー とめて、語研より刊 - 13 年度実施計画	外国語分科会」 ト調査を分析、	2013. 3 達成時期	( B &	A完全に達成 2 A完全に達成 または C の理師	2013 年 自 ) 2014 年	B達成半ば E度取り組み結果 B達成半ば E度取り組み結果		C 未達成
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと	ぶ決定、承認された - ト調査・研究」を「 - 下調査・研究」を「 実施する。アンケー とめて、語研より刊 - 13 年度実施計画	外国語分科会」 ト調査を分析、	2013. 3 達成時期	( B &	A完全に達成 2 A完全に達成 または C の理目 2 A完全に達成	2013 年 自 ) 2014 年	B達成半ば E度取り組み結果 B達成半ば E度取り組み結果		C 未達成
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと 20	ぶ決定、承認された - ト調査・研究」を「 - 下調査・研究」を「 実施する。アンケー とめて、語研より刊 - 13 年度実施計画	外国語分科会」 ト調査を分析、	2013. 3 達成時期	( B &	A完全に達成 2 A完全に達成 または C の理由 A完全に達成 または C の理由	2013年 自) 2014年 自)	B達成半ば E度取り組み結果 B達成半ば E度取り組み結果		C 未達成
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと 20	※決定、承認された - ト調査・研究」を「 を施する。アンケー とめて、語研より刊 13 年度実施計画	外国語分科会」 ト調査を分析、	達成時期	( B &	A完全に達成 2 A完全に達成 または C の理由 A完全に達成 または C の理由	2013年 自) 2014年 自)	B達成半ば E度取り組み結果 B達成半ば E度取り組み結果 B達成半ば		C 未達成
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと 20	※決定、承認された - ト調査・研究」を「 を施する。アンケー とめて、語研より刊 13 年度実施計画	外国語分科会」 ト調査を分析、	達成時期	( B &	A完全に達成 2 A完全に達成 またはCの理由 2 A完全に達成 またはCの理由	2013年 由) 2014年 由)	B達成半ば  E度取り組み結果  B達成半ば  B達成半ば  E度取り組み結果  E度取り組み結果		C 未達成
前年度にその実施が 育に関するアンケー との連携で後期に到 考察した結果をまと 20	※決定、承認された - ト調査・研究」を「 を施する。アンケー とめて、語研より刊 13 年度実施計画	外国語分科会」 ト調査を分析、	達成時期	( B &	A完全に達成 2 A完全に達成 または C の理由 な完全に達成 または C の理由 または C の理由	2013年 由) 2014年 由)	B達成半ば  E度取り組み結果  B達成半ば  B達成半ば  E度取り組み結果  E度取り組み結果		C 未達成

## 改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	研究員の個人研究と共同研究の効率的な展開が十全ではない。学生の教育的需要の検討が不十分である。
改善方策	7-25-2 課題別研究または共同研究を優先させ、授業に還元できる指向性を共有する。

### (2011年3月10日現在)

### 【現状の説明】

研究員の研究領域によって、一元化しにくい側面もあり、効果的な共同研究への取り組みにはなお不十分な体制である。引き続き、 検討事項として次期所長に申し送ることとした。

上記の改善方策にしたがい、「未修外国語に関する調査・研究」を東松山キャンパスにおかれている外国語分科会と連携で共同研究実施を決定したため「ガイドラインの作成、整備」は変更となった。

1			1
:	마다티	計画通り宝篋されるとした期待しませ	
1	<b></b>	<u>計画</u>	

### (2012年3月31日現在)

## 【現状の説明】

「共同研究を優先させ、授業に還元できる指向性を共有する。」ために、「未習外国語教育に関するアンケート調査・研究」実施を決定した。 東松山キャンパスでの大掛かりなアンケート調査が前提となるため、 東松山キャンパスの「外国語分科会」と連携がまとまった。 予算折衝において、 執行予算は新規事業枠として承認された。 新年度早々に実行準備にかかる体制が整った。

所見	「未習外国語教育に関するアンケート調査・研究」実施を決定しただけで、2011 年度中にこのアンケートは
	実際に実施されませんでした。2011 年度の実施計画は「未習外国語教育に関するアンケート調査を行う」と
	ありますので、目標を達成されているとは言えないと思います。2011 年度に実施できなかったアンケート実
	施について2012年度に計画通り実施されることを希望します。

### (2013年3月31日現在)

### 【現状の説明】

「東松山外国語分科会」との連携で、共同研究「本学における未習外国語に関する意識調査研究」は前期中に、日本フランス語フランス文学会によるフランス語教育に関する全国的アンケート(文部科学省の研究の一環)とのアンケート方法、分析等のタイアップが成立した。後期に「東松山外国語分科会」の協力を仰ぎ、本学における未習外国語全般に対するアンケートが実施された。分析と報告書作成が終了、2月末に刊行作業に入り、年度末刊行の運びとなった。

この成果が本学における未習外国語の教育改善、新機軸展開の基礎的資料となることを期待してやまない。

所見	目的が達成されたことは評価できます。しかしながら、恒久的な共同研究の仕組みについては提案できませ	
	んでした。研究所内で、今後も取り組みを続けられることを期待します。	

## (2014年3月31日現在)

### 【現状の説明】

1			1
	P/1 5rd .	!	:
	//  /		
		I .	

改善方策実施計画書 担当部局: 語学教育研究所 責任者: 語学教育研究所長 幹事: 外国語学部事務室

2010年7月13日								
認証評価指摘事項								
点検・評価問題点	研究所の研究活動	かの範囲、規模が	ゞ明確ではない	、学外	・海外の研究員との	D連携も不十分で	ある。	
改善方策	7-25-3 研究原	<b>近の研究活動を明</b>	確化し、学タ	ト・海外	の研究員との連携を	こ 積極的に整備する	5.	
	前	期		中	期			
計画	2010 年度	2011 年度	2012 <sup>£</sup>	F度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	
미쁘								
			<u> </u>					
20	10 年度実施計画		達成時期		2010 €	F度取り組み結果 -		
現行の研究所の規約	めを再検討し、問題	原を把握する。	2011. 3	<u> </u>	A完全に達成 〇	B達成半ば	C 未達成	
				,	またはCの理由)			
							に精査し、他研究	
					ごからの情報収集に			
				現行	<b>テの研究所の規約を</b>		-	
	11 年度実施計画		達成時期			F度取り組み結果		
学外・海外の研究員		を整備する。	2012. 3	0 1	A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
また、その研究成身	果の公開に努める。				またはCの理由)			
							:整備する」ために	
							<b>原を整備し、外国語</b>	
							研究員の受け入れ	
				及び研究成果の公開発表も実施が容易になった				
2012 年度実施計画			達成時期	2012 年度取り組み結果				
客員研究員制度@	の整備がなったので	、後期以降、研		1	A完全に達成 〇	B 達成半ば	C 未達成	
究所の研究活動の筆				本年月	度前期においては、	中国から客員研究	ご員が来日し、研究	
研究所の今後の諸治				活動を	と実施することにな	っていたが、先力	が大学と中国国内	
の運営に関し、慣習				事情に	こより、実現できな	かった。		
して、「語学研究所	申し合わせ事項	を作成に努め						
<u> వ</u> ం			and Darletter		2212	- 수로 20 AP 4 A L ET		
	013 年度実施計画		達成時期			F度取り組み結果		
研究所の研究活動権				<b></b>	A完全に達成	B達成半ば	C 未達成	
と展開を模索する。		<b>流や連携などか</b>		( B 3	またはCの理由)			
らその可能性を探る			ade Destate					
20	14 年度実施計画		達成時期			F度取り組み結果 		
					A完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
				( B 3	またはCの理由)			
20	015 年度実施計画		達成時期		2015 年度取り組み結果			
					A 完全に達成	B 達成半ば	C 未達成	
				<u></u>	またはCの理由)		<u>.</u>	

## 改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	研究所の研究活動の範囲、規模が明確ではない。学外・海外の研究員との連携も不十分である。
改善方策	7-25-3 研究所の研究活動を明確化し、学外・海外の研究員との連携を積極的に整備する。

### (2011年3月10日現在)

### 【現状の説明】

研究所の研究活動の範囲、規模については、本学の財政基盤、教育施策とも関わるため、現在の状況では現状維持で推移する可能性が高いが、海外からの研究員の招聘、受け入れについては成果を挙げている。今後、さらに充実させていく。 学外・海外の研究員との連携を充実させるために、先ず受け入れの基準、手続き等の整備に努める。

所見 一研究所のレベルを超えて、全学的に協議する必要があると思われます。

### (2012年3月31日現在)

### 【現状の説明】

「学外・海外の研究員、客員研究員制度を整備する」ために多数の論議を重ねた結果、申し合わせ事項を整備し、外国語学部教授会の承認を得た。整備の要諦は従来、学外・海外の研究員の申し出でに対し、関係各所間の受け入れ要件が重複しており速やかな対応ができない点を改善することにあった。語研での受け入れは「教員」であること、「滞日期間中の資金保障があること」等の条件が承認され、棲み分けが可能になった。学外・海外の研究員の研究成果の公開発表は従来、受け入れ時の条件になかったこと、語研の公開の場(HP, 語研便り等)が不十分であったことが改善されたために一段と容易になった。

所見 研究所内での申し合わせ事項を整理し、外国語学部教授会の承認を受け改善の取り組みが順調に進んだこと は評価できます。これに基づき 2012 年度以降の活動を期待します。 問題点としてあげている「研究所の研究活動範囲、規模」については、全学的な議論が必要でしょう。

# (2013年3月31日現在)

### 【現状の説明】

2011年4月から「語学教育研究所」の内規および申し合わせ事項等について、本研究所の合同委員会で何度となく議論を重ねた。その結果、2012年度の4月には文書化したものを学部構成員に対し説明し、それに基づいて2013年度は活動を実施する。

所見 2013 年度の活動が盛んに行われることを期待します。

### (2014年3月31日現在)

# 【現状の説明】

i			
1	마ե		
	17170	!	